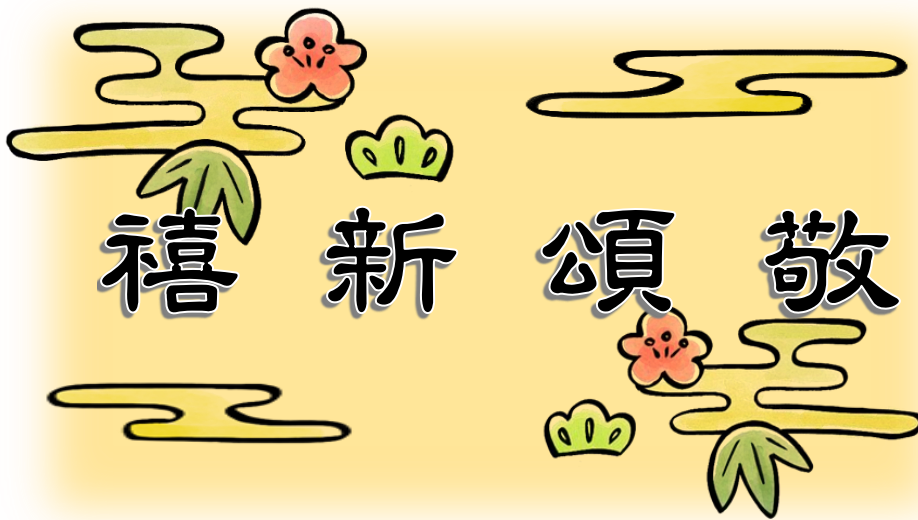




佐賀県神社庁報

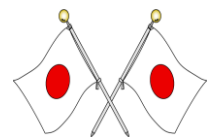
第316号

★発行所 佐賀県神社庁

庁長 徳久 俊彦
佐賀市川原町八番二七号

★メールアドレス

hizen.sagaken-j-chou
@shore.ocn.ne.jp



奉祝

皇紀二六八五年

謹みて新年のお慶びを申し上げます

皇紀二千六百八十五年の新春を迎え、聖寿の萬歳と弥栄、併せて県内各神社のご隆盛とご発展をご祈念申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、元日早々能登地方の大地震に始まり、夏の水害・台風の被害等様々な自然災害の多い年でありました。亡くなられた方々へのお悔やみを申し上げますとともに、未だ復興に向けて尽力されている方々へ物心両面での援助を続けなければなりません。

そして比較的自然的災害が少ない佐賀県に於きましても備えが必要です。特に高齢者が多い佐賀県は、常日頃からの地域のコミュニケーションが不可欠です。神社がその中心となるように氏子との繋がりが、より一層求められます。昨年は九州地区の当番県にあたり様々な会合が佐賀県で開催されました。特に五月の九州地区神職総会には各県より多数の参加を戴き盛大に開催することが出来ました。これも偏に佐賀県の参加者のほとんどの方がそれぞれの役を引き受けて戴いたからでした。心より御礼申し上げます。

又、十月の国民スポーツ大会に天皇皇后両陛下が行幸啓なされた際の奉迎提灯行列も多くの方々が参加され、提灯があつという間になくなるほどでした。両陛下も大いに喜ばれた様子は感激でした。

さて本年は三月末日を以て役員改選となります。今までの神社庁へのご協力に感謝申し上げますと共に本年も役員一同、力を合わせ努めてまいりますので、皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

令和七年乙巳 歳旦

佐賀県神社庁長 徳久 俊彦

佐賀県神社庁

庁長

徳久 俊彦

副庁長

永代龍三郎

全

村田 直敏

理事

佐野 安正

全

川浪 勝英

全

宮崎 浩司

全

鍋島 朝寿

全

松中 浩泰

監事

笠原 猛

全

岩永 英毅

参事

野崎 洸史

録事

田中 美香

職員

川浪 ゆかり

全

笠原 礼道

佐賀県神社総代会

会長

南里 和幸

副会長

垣内 利秋

全

三谷 英史

全

村田 直敏

理事

井上 和幸

全

辻 幸徳

全

平川 哲男

佐賀県神社庁支部長

佐賀地区第二支部南

日吉 高明

佐賀地区第二支部北

持永 圭子

神埼地区支部

山邊 和之

三養基地区支部

都渡 智久

小城地区支部

栗原 潔

東松浦地区東支部

石橋 明彦

唐津市地区支部

鳥越 友彦

東松浦地区西支部

藤瀬 昭三

西松浦地区支部

加志田 浩一

杵島地区西支部

北島 巖

杵島地区東支部

中村 勝正

藤津地区支部

北村 建治

佐賀地区第一支部

眞崎 実央

佐賀県神社総代会支部長

佐賀地区第二支部南

垣内 利秋

佐賀地区第二支部北

神代 正信

神埼地区支部

船津 保雄

三養基地区支部

井上 和幸

小城地区支部

南里 和幸

東松浦地区東支部

盛田 平

唐津市地区支部

辻 幸徳

東松浦地区西支部

内田 泰久

西松浦地区支部

立部 薫

杵島地区西支部

谷口 優

杵島地区東支部

片渕 義房

藤津地区支部

竹下 元一

佐賀地区第一支部

平川 哲男

佐賀県神社庁研修所

研修所長

徳久 俊彦

講師

鍋島 朝倫

全

東 正弘

全

武雄 哲司

全

永代龍三郎

全

村田 直敏

全

鍋島 朝寿

全

宮崎 浩司

全

加志田 浩一

全

田中 雅治

全

西原 清純

全

江頭 慶宣

全

川浪 勝英

全

松中 浩泰

祭式講師

笠原 猛

全助教

東 孝澄

雅楽講師

佐野 安正

全

古川 勝茂

祭祀舞講師

光増 隆昭

全講師補

宮田 彩子

錬成行事道彦

馬場 正典

全助彦

朝日 淳司

訓育主任

野崎 洸史

神社本庁教誨師

県駐在教誨師

村田 直敏

佐賀県神社庁教化委員会

神道政治連盟佐賀県本部									
委員長	笠原 猛	委員長	東 孝澄	委員長	川浪ひとみ	委員長	大島 仁志	委員長	朝日 芳彦
副委員長	重藤 薫範	副委員長	川浪ひとみ	副委員長	栗原 潔	副委員長	戸川 健士	副委員長	宮崎 貞克
委員	宮田 彩子	委員	田中 寛美	委員	橋富太市郎	委員	武雄 栄門	委員	永代 優仁
全	溝上 忠秀	全	前田 英明	全	村田 直敏	全	南里 和幸	全	永代龍三郎
全	戸川 健士	全	佐野 安正	全	宮田 有尊	全	宮崎 貞克	全	川浪 雅英
全	野崎 洸史	全	事務局長	全	青年隊長	全	事務局長	全	事務局長

佐賀県神道青年会

会長 川浪 雅英

副会長 梶田 匡祐

全 前中 俊二

全 大島 仁志

全 永代 優仁

全 松中朝比古

全 黒髪 宜嗣

全 加志田崇嗣

全 宮崎 貞克

全 古川 勝茂

全 森田 睦

全 古川三紗子

全 八嶋フヂヨ

全 西田レイ子

全 西村いつみ

全 鈴田ヨシ子

全 向井 良子

全 石田 雅子

若宮神社敬神婦人会

佐賀県敬神婦人会

会長 三嶽神社

副会長 金刀比羅神社

監事 櫛田 宮

委員 大木神社

全 八坂神社

全 山祇神社

全 五宮神社

全 琴路神社

行事予定

一月

六日 仕事始祭

十一日 学神祭

十九日 佐嘉・松原神社新春奉納書道

二十一日 展授賞式 於松原神社

二十一日 九州地区別表神社宮司会()

二十二日 於大分県

二十八日 神社庁役員会

杵島地区西支部新年初総会

於料亭松山

二月

十一日 建国まつり

東松浦地区西支部建国記念

の日奉祝式典

二十日 草場昭司大人命五年祭

二十一日 九州地区敬神婦人連合会

総会 於城山ホテル鹿児島

二十六日 第二期・第三期合同過疎対

策研究会()二十七日 於神社本庁

事務連絡

令和六年十二月三日付本奉発第八二号
神社本庁本宗奉賛部長名/神社庁長宛

▼神宮大麻頒布にかかる広報活動に

ついて

標記の件、神社本庁では「令和六年度
神宮大麻頒布向上施策」の一環として、
左記の通り実施しますので、貴管内関係
者への御周知方お願い致します。

一、動画CM 記

十二月十五日より明年一月十五日までの間、十五秒の神宮大麻啓発動画CMを、民法の見逃し配信サービス「Premium View」(Tver・各放送局配信サイト)やオンライン動画共有サービス(Youtube)で配信。

【共有ポータルサイト】

Tver (<https://tver.jp/>)

※対象局

日本テレビ(NTV)・TBS(TBS)・フジテレビ(CX)・テレビ朝日(EX)、テレビ東京(TX)・讀賣テレビ(YTV)・毎日放送(MBS)・関西テレビ(KTV)・朝日放送(ABC)・テレビ大阪(TVO)

【各放送局配信サイト】

日テレ無料TADA

(<https://cu.ntv.co.jp/>)

TBS FREE

(<https://cu.tbs.co.jp/>)

FOD

(<https://fod.fujityv.co.jp>)

テレ朝動画

(<https://doga.tv-asahi.co.jp/catchup>)

ネットもテレ東

(<https://video.tv-tokyo.co.jp/>)

y tv My Do

(<https://www.ytv.co.jp/mydo>)

MBS動画イズム

(<https://dizm.mbs.jp/>)

カンテレドーナ

(<https://ktv-smart.jp/pc/>)

【オンライン動画共有サービス】

YouTube

※配信対象は、十八歳～二十四

歳・男女、二十五歳～三十四歳・

女性に限定。

一、ニュースサイト動画

読売新聞「読売新聞オンライン」

(<http://www.yomiuri.co.jp/>) 及び

産経新聞「産経ニュース」

(<http://www.sankei.com/>) に十二月

二十日より明年一月五日までの間、

動画CMを掲載。

又、テキスト広告を読売新聞「読

売新聞オンライン」に十二月二十二

日より十二月三十一日までの間、

「産経ニュース」に十二月二十三日

より明年一月六日までの間掲載。

一、WEB記事

女性誌『anan』(マガジンハウ

ス)と提携し、「anan WEB」

「anan 総研」

(<https://anaweb.jp/soken/>) に

神宮大麻関連記事を掲載。三回連載で、十二月二日、十二月九日、十二月十六日に順次配信開始。

一、誌面広告

月刊『サンキュ』(ベネッセコーポレーション)令和七年一月号(十一月二十五日発売)及び令和七年二月号(十二月二十五日発売)に掲載。別紙(一)の通り。

同誌のWEB版にも神宮大麻奉

斎啓発記事を掲載(十二月二十二日に配信開始)。

一、ラヂオCM

十二月二十日より明年一月三日

までの間、FM東京ほか全国三十七局、ニッポン放送ほか全国三十四局

で実施。

別紙(二)の通り。

一、新聞広告掲載

令和六年十二月三十日、読売新聞

及び産経新聞の全国版・朝刊に神宮

大麻啓発広告(十五段・カラー)を

掲載。

その他

一、その他

神社本庁公式ホームページに映

像資材を、神職専用サイトに頒布資

材一覧を掲載。

以上

別紙(二)抄

全国ラヂオCMの放送(FM・AM)について

○放送機関

・令和六年十二月二十日(金)

～令和七年一月三日(金)

※実施放送局及び時間は一覧表の通り。

○内容(二十秒)

「伊勢神宮のお神札、神宮大麻を御存じですか。神宮大麻は全国の神社で受けられます。神宮大麻を地域の守り神、氏神さまのお神札とともにご家庭でおまつりし、清々しい新年をお迎え下さい。神社本庁からのお知らせです。」

一覧表抄

FM佐賀

月～金 午前 七時 七分

土 午前 一時一〇分

午後 一時五三分

日 午後 四時五三分

午後 三時四九分

令和六年十二月五日付教化発第一八五号
神社本庁教化広報部長名／神社庁長宛

▼「共同社報 令和七年正月版」活用方

推奨の件

標記の件、左記のデータを作製し、神職専用サイトに掲載致しましたので、貴管内神社での活用につき勸奨戴きますやうお願い申し上げます。

また、今後も各神社での教化広報活動に資するべく様々な資材のデータを神職専用サイトに掲載して参りますので、貴管内神職には本サイトの閲覧登録と活用につき、併せて勸奨願ひます。

記

一、作製物

「共同社報 令和七年正月版」

A4判 カラー両面刷

PowerPointデータ

神社名と連絡先を入力するだけで簡単に各神社の社報を作製することが出来ます。

左記の部分の文字の入力、差替へのプリンター印刷が可能です。

(表面) 題字(〇〇神社社報

令和七年正月号)・巻頭言・イラスト・顔写真

(裏面) 神社連絡先・コラム記事・

祈禱案内

一、その他

御不明な点がございましたら、教化

課宛に御連絡下さい。

(神社本庁教化広報部教化課)

電話番号 〇三―三三七九―八〇一六

メールアドレス kyouka@jinjahoncho.or.jp

令和六年十二月五日付本奉発第八十三号

神社本庁総長名／神社庁長宛

▼令和七年度春季「親子参宮団」の実施方勸奨について

標記の件、令和七年五月二十八日付本奉発第三三三号にて通知してをりますが、参宮促進運動の一環として明年三月一日(三月三十一日(四日から六日は頒布終了祭他諸行事の為除く)の期間、児童の春休みに合せての実施につき、改めて勸奨致します。

つきましては、別紙要項により貴管内に周知戴き、実施される際には別添申込書にて神社本庁本宗奉賛部までお申込み願ひます。

記

一、目的

神宮の自然や文化に直接触れることで、神宮に対する崇敬の念を養ひ、次代の式年遷宮を担ふ青少年の健全なる育成を目指します。

一、実施期間

○春季 令和七年三月一日(土)～

三月三十一日(月)

一、対象

親子参宮団の目的に賛同し、神社庁や支部、神社関係者団体が募った親子となります。

一、内容

○両宮参拝（どちらかで御神楽奉納）が原則となります。御神楽奉納には、神楽料が必要です。

○神宮式年遷宮への理解を深めるため「せんぐう館」を見学し、外宮で御神楽奉納することを推奨致します。尚、本企画による場合、「せんぐう館」・「神宮徴古館」の入館料は無料となります。

○両宮参拝時は神宮職員もしくは神社本庁職員が案内いたします。但し、土曜・日曜・祝日及び神宮で祭典・行事等が行はれる日は神宮職員による案内はありません。

域内では職員の指示に従って戴きますが、域外では各団体の責任となります。御留意願ひます。

○夜間参拝を実施する事ができます。実施を希望する場合は、事前に神社本庁本宗奉賛部まで御相談下さい。

一、行程例

行程例①（内宮で御神楽を奉納する場合）

外宮参拝・境内散策・せんぐう館見学（八〇分）↓（車で移動約一〇分）↓神宮徴古館見学（四〇分）※

↓（車で移動約一〇分）↓内宮参拝・境内散策（五〇分）・御神楽奉納（六〇分）

行程例②（外宮で御神楽を奉納する場合）

外宮参拝・境内散策（四〇分）・御神楽奉納（六〇分）・せんぐう館見学（四〇分）↓（車で移動約一〇分）※

↓神宮徴古館見学（四〇分）※↓（車で移動約一〇分）↓内宮参拝・境内散策（五〇分）

○所要時間は、御正宮と第一別宮を参拝した場合を目安としてゐます。

一、申込

出発日の一ヶ月前までに、別添申込書の書式に基づき、神社本庁本宗奉賛部宛お申込み下さい。神社庁支部及び神社関係者団体についても、所属神社庁を通じての申込みとなります。尚、実施日時及び内容については、事前に本庁へ御相談願ひます。

一、提供資料

希望により青少年向け教化冊子及び記念品を提供致しますので、申込書に必要なの有無を御記入下さい。

一、備考

○参拝は、原則として自由参拝となります。

○神宮までの往復移動手段、宿泊については企画者側で御手配願ひます。無理のない行程でお組み下さい。

以上

令和六年十二月十三日付総務発第九十五号

神社本庁総務部長名／神社庁長宛

▼総長・副総長の選任について

標記の件につきましては、令和四年七月一日付総務発第四三三号を以て連絡を致してをりましたが、此度の司法判断の確定及び令和六年十二月十二日開催の役員会において、総長には田中理事が、副総長には吉川理事が夫々統理より指名されました。

つきましては、同日付で就任することとなりましたので、御連絡申し上げます。

以上

令和六年十二月十七日付総務発第九十三号

神社本庁総長名／神社庁長宛

▼昭和五十五年通達第四号に添付した神社本庁憲章の誤植の訂正について

標記の件、昭和五十五年の定例評議員会において決議され、六月十八日付通達

第四号にて送付した「神社本庁憲章」に、左記の誤植があると判明しましたので、御管内に周知徹底方御配慮下さい。

記

一、誤植

第十五条第二項中

誤「斯界」 正「斯道」

一、備考

右のほか、送付した通達の附則

第二項中「二十七日」は誤りで、

「二十九日」が正しいと判明して

ゐます。当時の評議員会では当該

規程制定日を誤ったまま議案が

決議され、その後も

訂正の手続きが為されてゐな

いことが判明したため、あらため

て評議員会において手続きを行

ふ予定です。

尚、頒布してゐる『神社本庁規

程類集』では編集過程の誤植とし

て扱はれ、既に訂正されてゐます

以上

◆◆◆神宮崇敬会たより◆◆◆

▼第七十回伊勢神宮新穀感謝祭斎行

我が国の御祖神、心のふるさとと仰ぐ

『お伊勢さま』に、神宮奉賛・国民総参宮の趣旨のもと、五穀をはじめ農作物の豊かな実りと、その限らない御神恩に感謝の真心を捧げる、伊勢神宮新穀感謝祭が令和六年十二月五日(木)神宮に於いて斎行され、当県より佐賀県農業協同組合中央会関係者並びに伊勢神宮崇敬会佐賀県本部役員・事務局が参列した。

先ず、外宮並びに内宮御垣内特別参拝、御神楽奉納の後、神宮会館に会場を移し、式典が執り行われた。

頭彰式では、嘉例により敬神の念篤く農林水産業の発展に特に功績顕著な者として、佐賀県農業協同組合常務理事小野康文氏、唐津農業協同組合常務理事有馬正博氏の両名が『農事関係功労者』として表彰の栄に浴された。

また本年は十年毎の周年記念にあたり、多年の参列や会の維持に対する功績があつた

者に対し
て功労頭
彰が行わ
れ、当県
では佐賀
県農業協
同組合中
央会会



長、伊勢神宮崇敬会佐賀県本部長、佐賀県神社庁がそれぞれ表彰された。

◆農事関係功労者

佐賀県農業協同組合

常務理事

おの やすふみ
小野 康文氏

○功績概要

昭和五十四年四月に佐賀県酪農業協同組合連合会に入会。広域合併により平成十九年四月に県内八JAが合併し誕生した佐賀県農業協同組合において、畜産酪農部次長を務めた。その後九州生乳販売農業協同組合連合会では総務部長を務めた。

平成二十九年六月からは、農業・農協における卓越した見識と情熱を買われ、佐賀県農業協同組合の理事に就任。

同氏の農協運動に専心する姿は、農協

役職員はもとより農家組合員の誰もが認めるところであり、全幅の信頼が寄せられており、同氏の指導力と農業に対する熱意が認められ、令和五年六月からは地区担当常務理事に就任した。現在、農協運動のリーダーとして、地域農業振興と農協の発展に大きく貢献している。

また、県段階においても、佐賀県農業

協同組合中央会代表監事として、本県JAグループの発展に寄与している。

唐津農業協同組合

常務理事

ありま まさひろ
有馬 正博 氏

○功績概要

農業に対する熱意が強く、昭和六十一年三月、大学を中退し、就農。

同氏の指導力と農業に対する熱意が認められ、令和四年六月に唐津農業協同組合営農経済担当常務理事に就任。現在、農協運動のリーダーとして、地域農業振興と農協の発展に大きく貢献している。

県段階においても、農業関連団体である佐賀県畜産協会理事、佐賀県園芸農業振興基金協会理事を務め本県農業、JAグループの発展に大きく貢献してきた。

同氏が営農経済担当常務を務める唐津農業協同組合は、ミカン、蔬菜、肉牛を中心に消費者に頼られる農畜産物の生産・販売に努めている。また、同組合の基本理念である『高生産』『高収益』『高倉頼』『高満足』『高奉仕』を実現すべく地域との共生、安全・安心な農畜産物の提供に全力で取り組んでいると

ころである。

今後とも地域の牽引役として佐賀県農業の発展に寄与されることが期待されている。

◆◆教化委員たより◆◆

陶山神社称宜 宮田 彩子

皆様、新年あけましておめでとうございます。

本年も皆様方が健やかにお過ごしになられますことお祈り申しあげます。

御祈願の後に祈願の方々少し話をする「社頭講話」

私の場合は「講話」というほどのものでもないのですが、「社頭談話」としておこう

新年の祈願はいつもその年の「干支」の話をします。干支の特徴や行動、縁起などから干支にちなんだ話をして、「今年もがんばりましょう」と締めくくります。

今年は「巳」。はあ。なんとも微妙な干支。見た目もなんとなく執念深そうな性格も。

巳年生まれの方ごめんなさい。かくいう私も何回目かの脱皮をする巳年。

ほかの干支はなんでも言いようがあるがなかなか巳年は難しい。「金運が

い」というのはあるが、正月から「金運」を全面推しもなかなかどうか・・

前年の「辰」、後年の「午」はかつこよさではトップを競うような2大干支。一方は空も飛べるし、一方は颯爽と大地を駆け回る。片やその間に挟まれた「巳」はどうだろう。

巳は手もなければ足もない。もちろん爪も翼も。巳は胴体があるだけ。それこそ巳は身一つなのだ。よくよく考えるとなかなかかわいそうなのだ。地面を手も足もないのに身一つで身をよじりながら頑張つて前に進んでいる。時には身を巻き付けながら木にも登っている。周りにはシュシュって簡単に進んでいるようにしか見えてないがへびさん的にはそれこそ必死なのだ。地べたをはいずりながらも必死に前に進む。努力のへびさん。もしかしたらだからこそ「金運」なのかもしれない。

「金運」は簡単には手に入れない。最近はやりの「闇バイト」なんて以ての外だ。

今年はへびさんを見習って、せめて人間なのだから「地に足をつけた」仕事をしっかりと頑張っていきたいものである。

皆様、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

事務報告

【本庁委嘱】

■古川 勝茂

神社庁雅楽講師を委嘱する

令和六年十二月一日

【任免】

■妙見神社宮司代務者 本城 万里

唐津市藤崎通

妙見神社宮司に任ずる

令和七年一月一日

■妙見神社宮司 本城 万里

唐津市高島

兼ねて塩屋神社宮司に任ずる

令和七年一月一日

■妙見神社宮司 本城 万里

唐津市二タ子

兼ねて二タ子神社宮司に任ずる

令和七年一月一日

研修案内

福岡県神社庁研修所主催

▼九州地区中堅神職研修(甲)

一、期日

令和七年三月 十日(月)

〓全十四日(金)

一、場所

福岡県神社庁

一、参加費

受講料 三〇、〇〇〇円

※入所許可の通知を受けた後、納入のこと。

一、申込期限

令和七年二月三日(月)

※詳細は神社庁にお尋ね下さい。

寄贈書籍等目録並びに御芳名

自 令和六年十二月 一日

至 全 三十一日

・みいづ 第一六〇号 稜威會本部 様

・霊峰富士 第一〇八号 富士山本宮浅間大社 様

・靖国 第八三三号 靖国神社 様

・大洗さま 第五六号 大洗磯前神社 様

・水天門 第一〇四号 赤間神社 様

・佐加太利 第一一四号 赤間神社 様

・靖国 第八三三号 防府天満宮 様

・大洗さま 第五六号 靖国神社 様

・水天門 第一〇四号 大洗磯前神社 様

・佐加太利 第一一四号 赤間神社 様

・鳥取県神社庁報 第一〇五号 防府天満宮 様

・鳥取県神社庁 第一〇五号 鳥取県神社庁 様

・砥鹿 第一四九号 研鹿神社 様

・大美和 第一四八号 大神神社 様

・神青おきなわ 特別号 沖縄県神道青年会 様

・儀礼文化ニュース 第二三六号 儀礼文化学会 様

・代々木 五三九号 明治神宮 様

・北海道神社庁報 第一二九八号 北海道神社庁 様

・神道香川 第二七一号 香川県神社庁 様

・佐加太利 第一一四号 赤間神社 様

・水天門 第一〇四号 赤間神社 様

・大洗さま 第五六号 大洗磯前神社 様

・靖国 第八三三号 靖国神社 様

・霊峰富士 第一〇八号 富士山本宮浅間大社 様

・みいづ 第一六〇号 稜威會本部 様

・佐加太利 第一一四号 赤間神社 様

・水天門 第一〇四号 赤間神社 様

・大洗さま 第五六号 大洗磯前神社 様

・靖国 第八三三号 靖国神社 様

・霊峰富士 第一〇八号 富士山本宮浅間大社 様

・みいづ 第一六〇号 稜威會本部 様

令和七年 学神祭斎行の御案内

新年にあたり 神社庁神殿にて学神祭を斎行致します
祭典に併せ 竹の園生の儀式に倣い 講書始の儀
並びに賀寿の御祝も執り行いますので
御参列下さいますよう御案内申し上げます

一、日時 令和七年一月十一日(土) 午後三時

一、場所 神社庁神殿

一、講書始 日枝神社 日吉 高明 宮司

「西宮社 火災からの復興の軌跡」

一、祝意表明

一、御案内 神社庁役員、協議員、研修所講師、
支部長、支部幹事、大麻幹事、
教化委員、県総代会役員、評議員、
総代会支部長、各指定団体会長、
敬神婦人会単位会長、他管内神職

※既に御案内の通り、往復ハガキ返信面で
参列の有無についてお知らせ願います。

年末年始の閉庁期間について

十二月二十八日(土) から
一月 五日(日) まで
閉庁となります。ご迷惑おかけ
致しますが、何卒ご了承下さい。

◎緊急の連絡先

参事携帯

〇九〇―八九一八―三四〇四

各提出物のお願い

神社役員・崇敬者調査

支部締切：一月十五日(水)

神社庁締切：一月二十日(月)

神社庁定例表彰内申

支部締切：一月十七日(金)

神社庁締切：一月末日

神社活動に関する全国調査

支部締切：二月十四日(金)

神社庁締切：二月二十日(木)

神宮大麻精算関係

支部締切：二月 三日(月)

神社庁締切：二月十五日(土)